

令和6年度私立学校初任者研修北関東地区研修会実施概要
～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：新潟県私立中学高等学校協会

会 期：令和6年6月26日（水）～28日（金） 宿泊研修

会 場：長岡グランドホテル（新潟県長岡市）

参加人員：55名

参加対象者：茨城県、栃木県、群馬県、新潟県の各私学協会に加盟する私立中学校・高等学校・中等教育学校に新たに採用された教員（含経験者）及びそれに準ずる教員（近年の採用教員を含む）

【日程細目】

第1日 6月26日（水）

〔全体会場：4階 悠久中①②〕

12:00	受 付	
12:30	開 会 式 開会の辞 主催者挨拶 開催県代表挨拶 日程内容説明 閉式の辞	司会：若 木 滋 一般財団法人日本私学教育研究所 所長 平 方 邦 行 新潟県私立中学高等学校協会 会長 藤 澤 健 一 新潟県私立中学高等学校協会 事務局長 上 杉 肇
12:50	研修1〔講演〕 演 題 「プレ22世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」 講 師 平 方 邦 行	司会：柳 澤 陽 一般財団法人日本私学教育研究所 所長
13:30	休 憩	
13:40	キックオフミーティング テーマ 「アクティブラーニングによる授業実践」 担 当 帝京長岡高等学校・中越高等学校	司会：若 木 滋
14:40	研修2〔講義〕 演 題 「常勝集団のプリンシプル～自ら学び成長する人材が育つ心マネジメント～」 講 師 岩 出 雅 之	帝京大学スポーツ局局长／帝京大学医療技術学部
16:00	休 憩	
16:10	ワークショップ1〔グループ討議〕 テーマ 「学級経営・部活動指導とマネジメント」 Aグループ 指導員：鹿 沼 和 哉（新潟明訓中学校・高等学校 教頭） Bグループ 指導員：佐 藤 一 彦（北越高等学校 副校長） 指導員：木 下 幸 彦（上越高等学校 教頭） Cグループ 指導員：坂 本 一 文（新潟清心女子中学高等学校 教頭） 指導員：佐 藤 忠 行（開志学園高等学校 主幹教諭） Dグループ 指導員：浅 妻 和 章（敬和学園高等学校 教頭） Eグループ 指導員：上 原 洋 一（新潟第一中学高等学校 教頭） 指導員：西 嶋 俊 文（関根学園高等学校 教頭） Fグループ 指導員：田 村 英 明（日本文理高等学校 副校長） 指導員：長 島 修（新潟産業大学附属高等学校 教諭） Gグループ 指導員：仲 野 孝（加茂暁星高等学校 校長） 指導員：今 井 基 也（長岡英智高等学校 教頭） Hグループ 指導員：上 山 裕 二（新発田中央高等学校 校長） 指導員：坂 井 福 作（創進学園高等学校 校長） Iグループ 指導員：安 食 香 織（開志国際高等学校 教諭）	司会：小 泉 眞 澄／嶋 原 章 子
17:30	休 憩	
18:10		

18:10	教育懇談会 開催県代表挨拶 乾杯 挨拶	新潟県私立中学高等学校協会 新潟県私立中学高等学校協会 新潟県私立中学高等学校協会	司会：浜田聡 会長 藤澤健一 副会長 風間和夫 副会長 田中利夫
20:10			

第2日 6月27日(木)

〔全体会場：4階 蒼柴の間〕

	朝食	
8:50	研修3〔講義〕 演題 「近年の社会情勢下における生徒指導：子供若者の支え方」 講師 碓井真史 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科 教授	司会：佐藤宏欣
10:30	休憩	
10:40	ワークショップ2〔グループ討議〕 コーチング テーマ 「生徒指導」 指導 碓井真史 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科 教授 指導員 ワークショップ1同様指導員	司会：佐藤宏欣
12:00	昼食	
13:00	研修4〔講義〕 演題 「探究的な学びデザイン」 講師 酒井淳平 立命館宇治中学・高等学校 数学科教諭 キャリア教育部長	司会：関仁
14:30	休憩	
14:40	ワークショップ3〔グループ討議〕 学習指導 テーマ 「学習指導」 指導 酒井淳平 立命館宇治中学・高等学校 数学科教諭 キャリア教育部長 指導員 ワークショップ1同様指導員	司会：関仁
16:00	休憩	
16:10	研修5〔発表打合せ〕 グループ毎の発表打合せ ※ グループ・指導員はワークショップ1と同じ	
17:00	自由夕食・自主学习	

第3日 6月28日(金)

〔全体会場：悠久中①②〕

	朝食	
9:00	研修6〔発表準備〕 グループ毎の発表準備 ※ グループ・指導員はワークショップ1と同じ	司会：八子祐也
10:10	発表・講評 ※ グループ毎の発表	司会：若木慈
11:50	閉会式 主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 初任者研修等事業検討委員 開催県代表挨拶 新潟県私立中学高等学校協会 副会長 西山啓一 修了証授与 一般財団法人日本私学教育研究所 初任者研修地区運営委員 閉会のことば 新潟県私立中学高等学校協会 副会長 浅川節雄 田中利夫	司会：若木慈
12:00	解散	

概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】

まず平方所長が主催者挨拶を行い、少子化が進む中、私立学校も生徒数の減少が考えられるが、その時に学校をどのようにしていかなければならないかを私立学校の教員として考えてもらいたいと話した。続いて藤澤会長が開催地代表を行い、アップル社のiPhone が発売されて以来、世の中が大きく変わっていったが、教育は変わらないということ、また国際連合本部でのマララ・ユサフザイ氏のスピーチの中での「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられる」という言葉や山本五十六の名言「やってみせ」を紹介し、参加の先生方を激励した。



【研修1（講演 平方邦行所長）】

私立学校と公立学校の違いについて、私立には経営があり、建学の精神がある。理想の教育を求め独自性を追求し、未来を見据えた教育を行うことが必要と話した。また、2024 年は私立にとって覚悟の年となる。22 世紀をイメージして私立学校に携わる者として教員生活に臨んでほしいと激励した。

【キックオフミーティング】

最初にアイスブレイクとして、参加者は6 名程度のグループに分かれ、「積み木式自己紹介」が行われた。その後、「学級経営・部活動指導」、「生徒指導」、「学習指導」について日頃の悩み等について各自が付箋紙に書き込み、発表し、模造紙にグルーピングした後、さらに具体的な内容について話し合った。本プログラムを行うことで、後ほど行われたグループでのワークショップがスムーズに進んだ。

【研修2・3・4（講義 岩出雅之氏／碓井真史氏／酒井淳平氏）】

岩出氏は、私学は経営が成り立たなくてはならず、求人と教育が不可欠となり、人材が重要となること、そして自立を促す組織作りには人材育成が鍵となること、教員は教え過ぎず気付かせていく伴走者であることが重要で、セルフティーチング、セルフコーチングに近づけていくこと、これからの社会を生き抜くためにはダブルゴール・学び続けていく力が必要であることを話した。まとめとして、支援型リーダーシップの育成について、伴走と補完であり、リーダーはコミュニケーションの回路をつなぐことが大切であり、サポートを通してリーダーシップが育成されると話した。

碓井氏は、スクールカウンセラーとして分かることは不登校の子供は本心では「学校に行きたい」と思っていて、本心は「できるなら」であるが、勇気がなく、どうしていいかわからないということ、学校では自己肯定感を高める指導が広まっているが、誰も自分の気持ちはわからないと思うと自己肯定感は下がり（社交性感覚）、自分は頑張ることができる人間だと思うと自己肯定感につながる（勤勉性感覚）、「みんな違ってみんなよい」と聞くが、ほとんどの子供は他と同じがよいと考えるが、人との比較ではなく過去との比較が大切であること、カウンセリングでは分かっているけどさらに聞くとその背景も分かり、本音を聞き出すには時間がかかるが、子供のよいところを見つけ、リフレーミングする。性格を肯定的に受け入れるとよい方向に生かすことができること等を話した。

酒井氏は「授業改善、探究的な授業づくりの知識・方法を学ぶ」「授業方法の改善を考える」「自分の WILL に気づく」の3 つの目標として講義を行った。講義内でグループワークを多く取り入れ、立命館宇治高等学校の取り組みに関して資料をもとにした内容、コア探究を担当したとして、教科を学ぶ意味、どのような授業をしたいか、生徒にどのような力をつけたいかといった内容を考えさせた。探究は「確認としての探究」「構成された探究」「ガイドされた探究」「オープンな探究」の4 つのレベルがあり、4 つが設計されていることが必要と話した。

【ワークショップ〔グループ討議〕学級経営・部活動指導とマネジメント／生徒指導／学習指導】

3つの講義の後にそれぞれの内容を踏まえてワークショップ、グループ討議が行われた。それぞれの講義で学んだ内容を踏まえながら各グループで考えを深めていった。

【発表】

9 グループがコーチング、生徒指導、学習指導のいずれかを担当して発表を行った。なお、発表テーマは最後のワークショップ後に抽選で決め、その後、各グループで発表の準備を行い、発表に臨んだ。

【閉会式】

主催者挨拶として西山啓一氏、風間和夫氏が講評や研修を受ける意義等を踏まえながら挨拶を行った。

最後に受講者に修了証が授与され、研修会は終了した。



参加者アンケートより

講義①「プレ 22 世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」(平方先生)

- 私学が目指す理想像を「一人で」ではなく、「私学チーム全体で」形作っていききたい。
- クライアントが求める学校とは何かを考えることと同時に、教員として大切にしなければいけないことは何か考えさせられた。
- 私立の教員として、先見性・先進性・独自性を生み出せる教員になりたいと思った。

講義・ワークショップ1「常勝集団のプリンシプル～自ら学び成長する人材が育つ心のマネジメント～」(岩出先生)

- 支援型リーダーシップの育成などが非常に勉強になった。
- 教員は生徒の伴奏者であることを改めて気付かせてもらった。トップダウンの指示では衝動的な反発心が生まれ解決に導けない。内発的動機付けで達成感を味合せて寄り添いたい。
- コーチングという、とても抽象的なものだったのでイメージがあまり沸かなかったが、「考えて成長させる」という現場で実践しなければならないことだったので、参考になった。
- 脱体育会スタイルの実践・定着の実例を見て、教育現場の様々な場面においてビジョンを持って行動すれば全体も支えられる。
- 信頼関係を築くためには、行為の根拠となった心理を察知できる力が大切であると知った。

講義・ワークショップ2「近年の社会情勢下における生徒指導：子供若者の支え方」(碓井先生)

- 生徒を指導していく上で、厳しい接し方ではなくコミュニケーション、サポートするという生徒に寄り添った形が本来の姿なのかもしれないと思った。
- 今まで思っていた生徒指導と真逆で驚いた。
- これまでの生徒を締め付けるイメージから、寄り添うような生徒指導の仕方を学べた。
- 「やる気がない生徒は一人もいない」という言葉が印象に残った。生徒をしっかりと観察する眼を養っていききたい。
- 一人一人の良いところ、強みを見つけて少しでも輝けるような支援をしたい。

講義・ワークショップ3「探究的な学びデザイン」(酒井先生)

- 探求というと、「総合的な探求」のイメージが強かったが、普段の授業に取り入れて考えることができると初めて知った。
- 特別なことをしなくても発問の視点を変えるだけで、探究的な授業にすることができる。
- 探究活動を目的とするのではなく、目的意識を生徒に持たせることが大切だと思った。
- 発問の抽象化によって探究的指導になると言う気付きがあった。
- 教師の発問 1 つで探求の授業に変わる、という発見が出来た。説明ばかりの授業を脱却し、生徒に考えさせる授業展開をしていきたい。